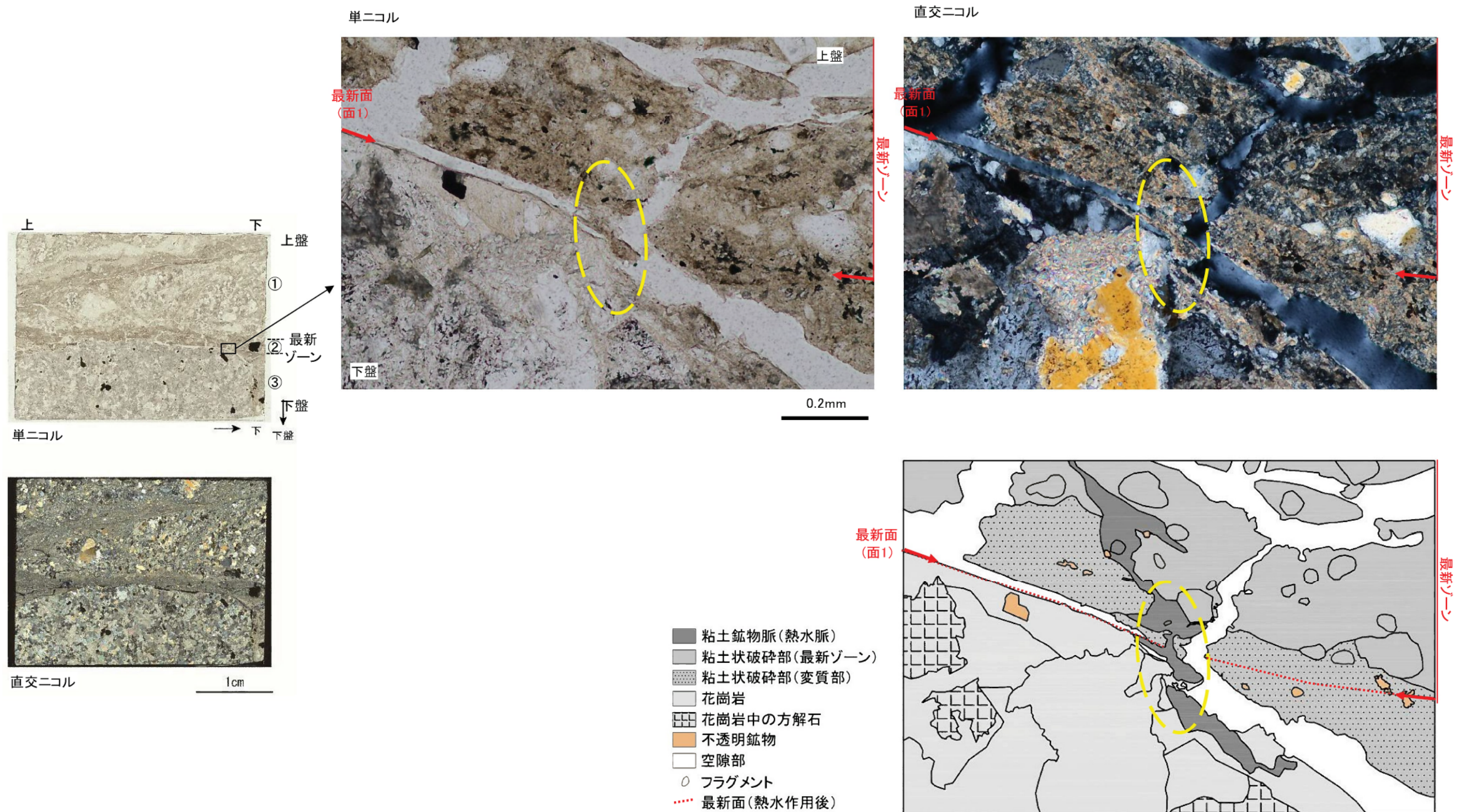


104.80m付近 薄片観察結果(2)

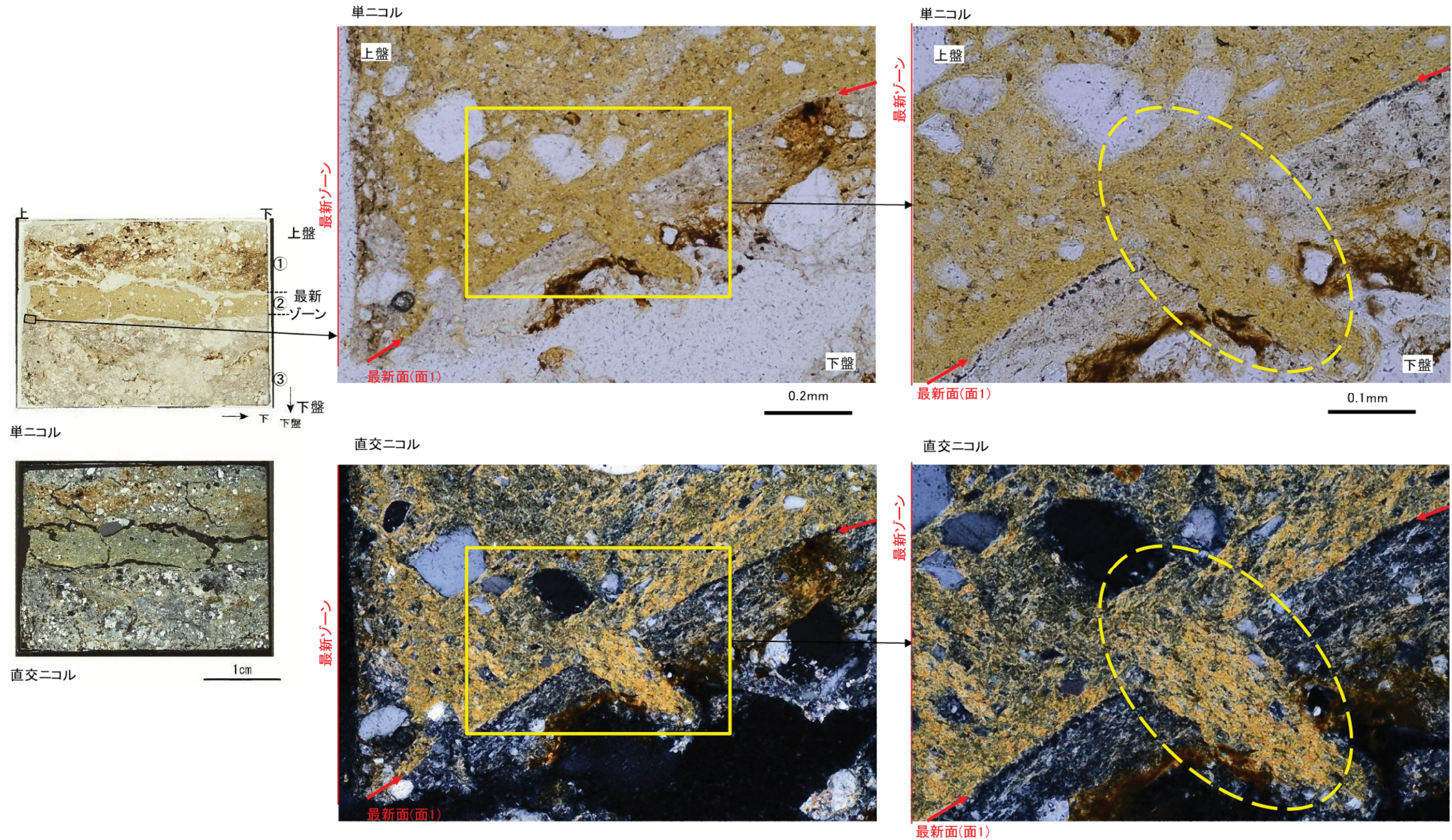
として認定した破碎部のうち 104.80m付近で認められた破碎部の最新面(面1)と粘土鉱物との関係について詳細観察結果のスケッチを以下に示す。



- ・最新面(面1)及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達しており、最新面(面1)が粘土鉱物で充填され不明瞭になっている。
- ・また、この粘土鉱物には最新面(面1)を横断しているものがあり、変形していない。

15.15m付近 薄片観察結果(1)

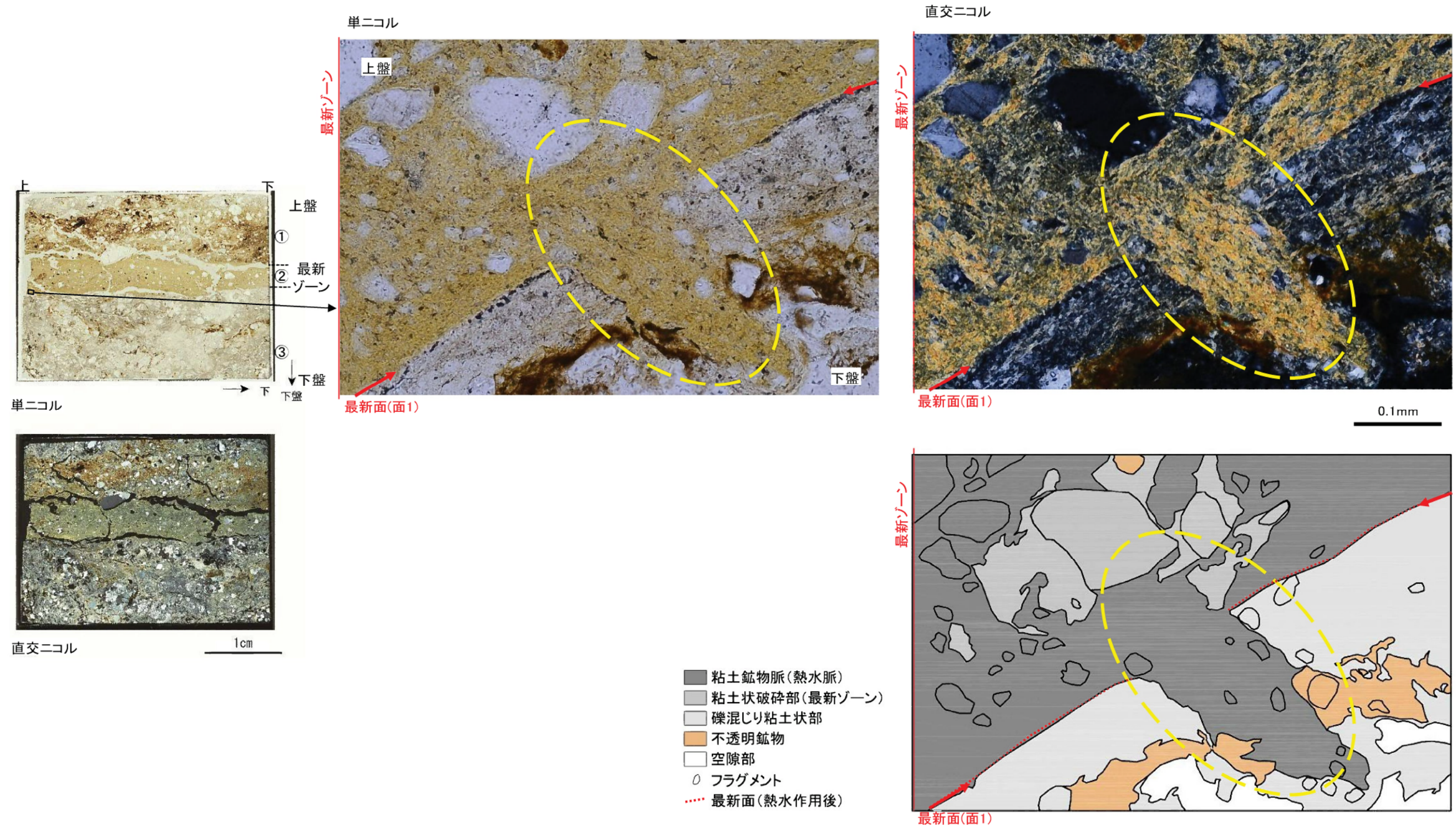
CT画像観察、条線観察を実施した上で、 として認定した破碎部のうち 15.15m付近で認められた破碎部の最新面(面1)と粘土鉱物との関係について詳細な観察を行った。



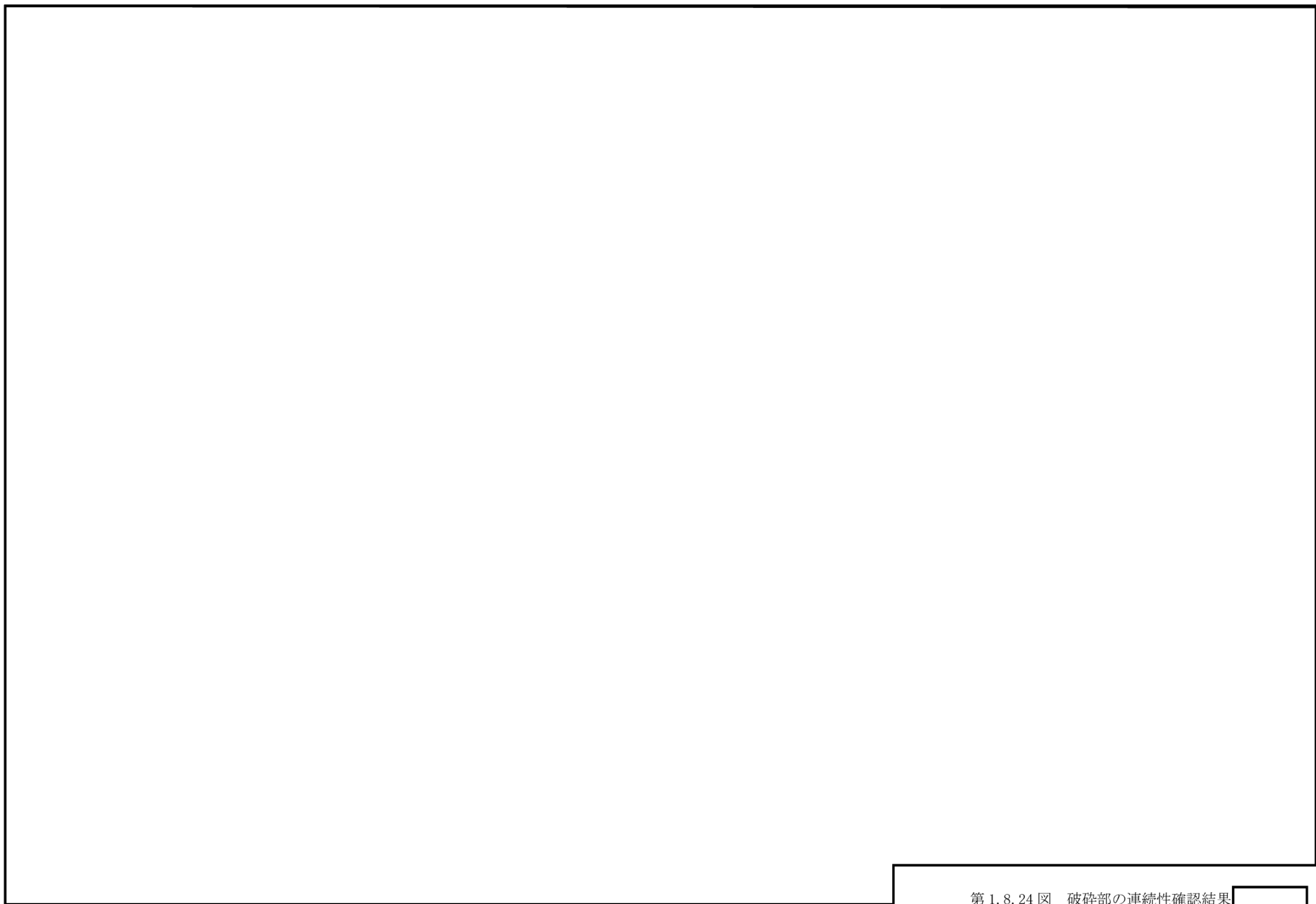
- ・ 最新面(面1)及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達しており、最新面(面1)が粘土鉱物で充填され不明瞭になっている。
- ・ また、この粘土鉱物には最新面(面1)を横断しているものがあり、変形していない。
- ・ 横断している粘土鉱物脈にフラグメントの再配列や弓状構造は認められず、注入現象ではない。

15.15m付近 薄片観察結果(2)

として認定した破碎部のうち 15.15m付近で認められた破碎部の最新面(面1)と粘土鉱物との関係について詳細観察結果のスケッチを以下に示す。



- ・ 最新面(面1)及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達しており、最新面(面1)が粘土鉱物で充填され不明瞭になっている。
- ・ また、この粘土鉱物には最新面(面1)を横断しているものがあり、変形していない。
- ・ 横断している粘土鉱物脈にフラグメントの再配列や弓状構造は認められず、注入現象ではない。



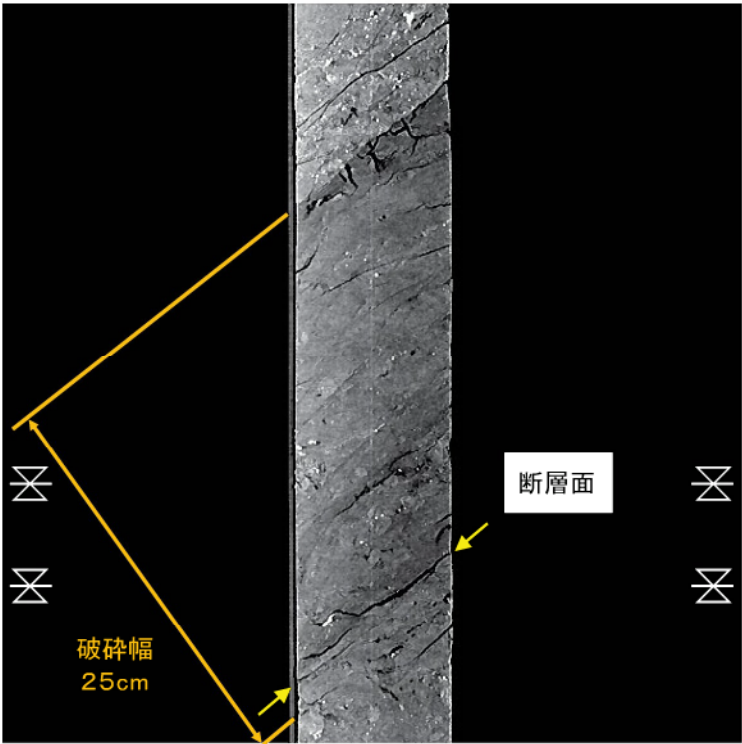
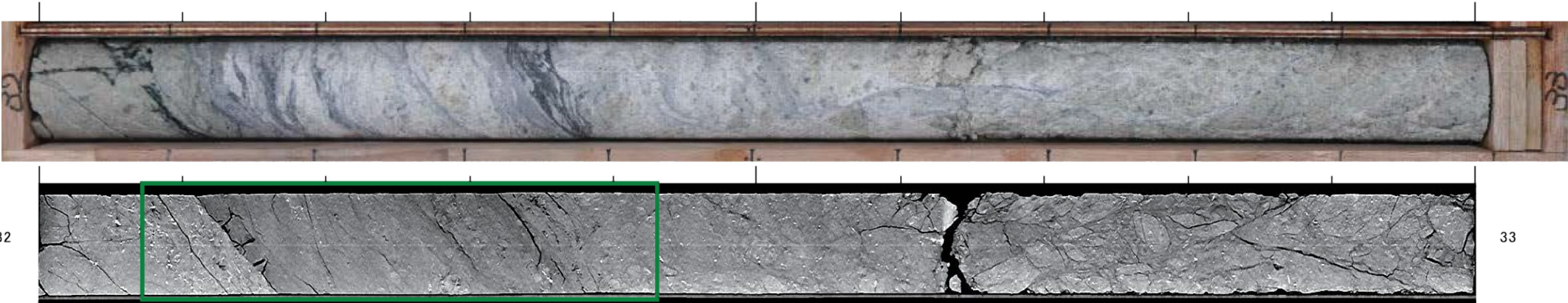
第 1.8.24 図 破碎部の連続性確認結果

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

32.35m付近 CT画像観察結果

CT画像観察により、他の構造に切られず、二次元的に直線性・連続性に富む断層面の観察及び破碎部性状の確認を行った。

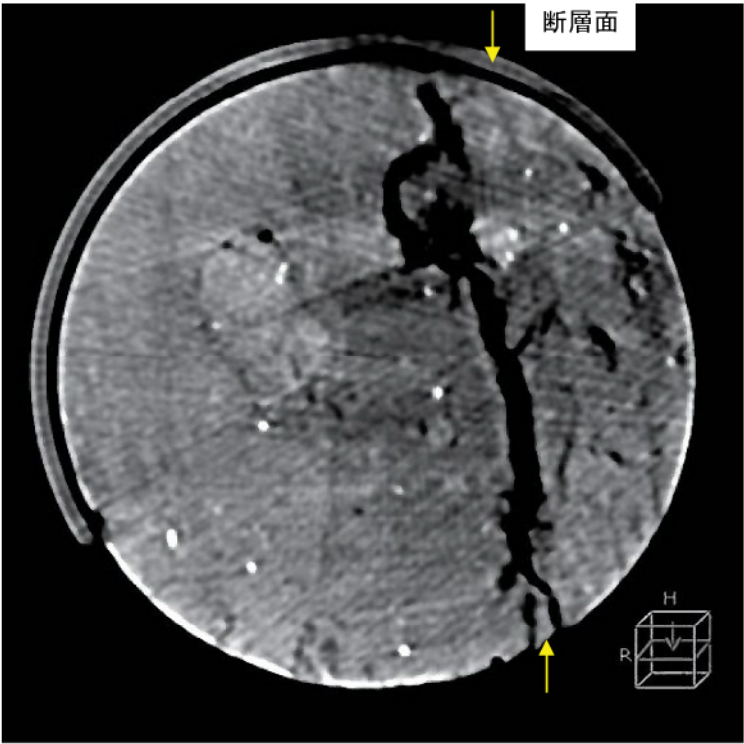
【諸元】
孔口標高：E.L.-4.53m、掘進方向：一、掘進角度：90°、掘進長100m



最大傾斜方向の断面



コア軸直交方向の断面



コア確認によって認められた破碎部のCT画像観察の結果、断層面に沿って幅25cmの固結した角礫状破碎部と幅1cmの粘土状破碎部が認められる。

第 1. 8. 25 図 32. 35m 付近 CT 画像観察結果

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

32.35m付近 条線観察結果

CT観察における断層面において条線観察を実施した。



断層面(下盤上面)



断層面の状況



断層面の状況

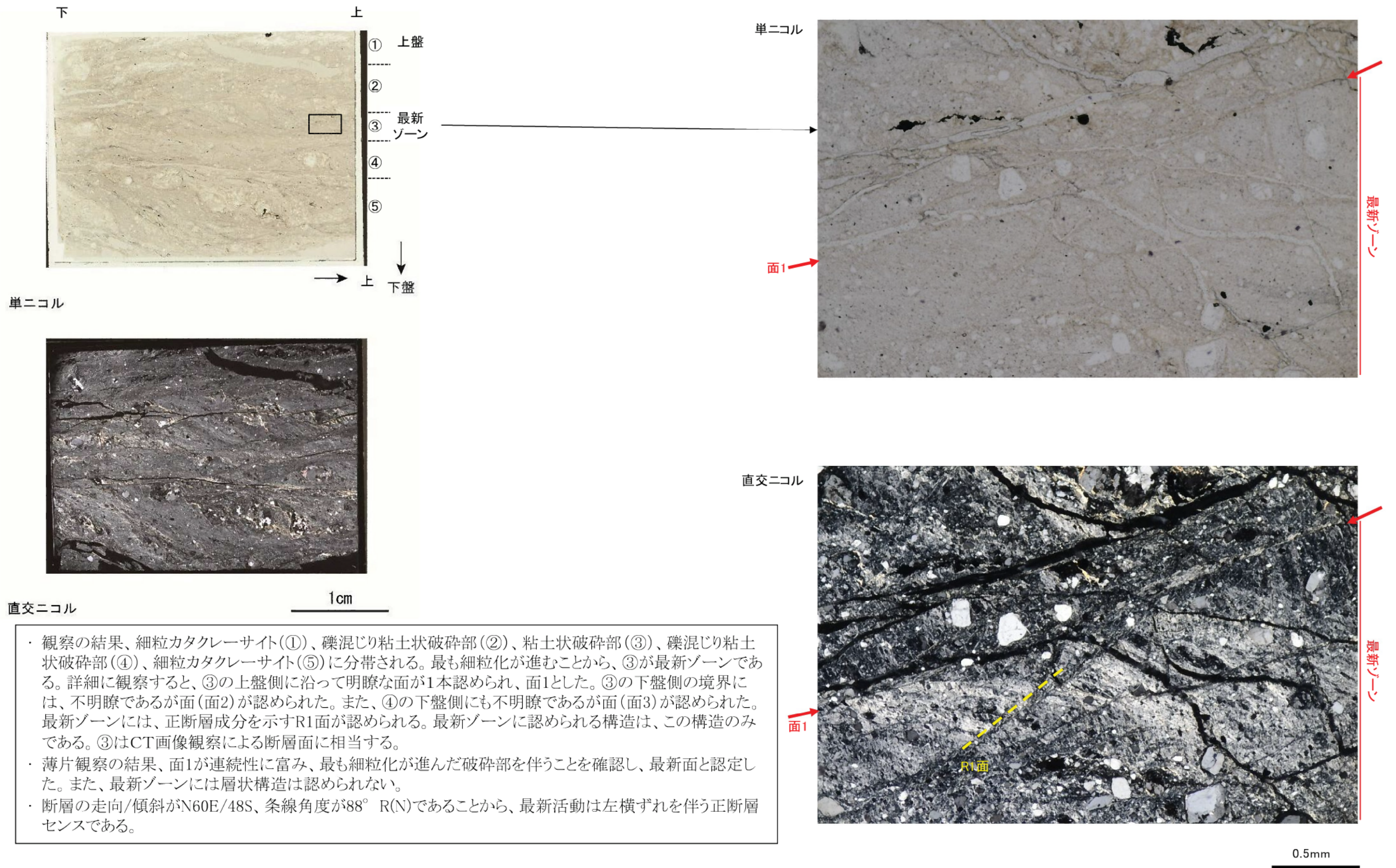


条線の方角を示す模式図は、下盤側の上面を上から見た状況を表す。

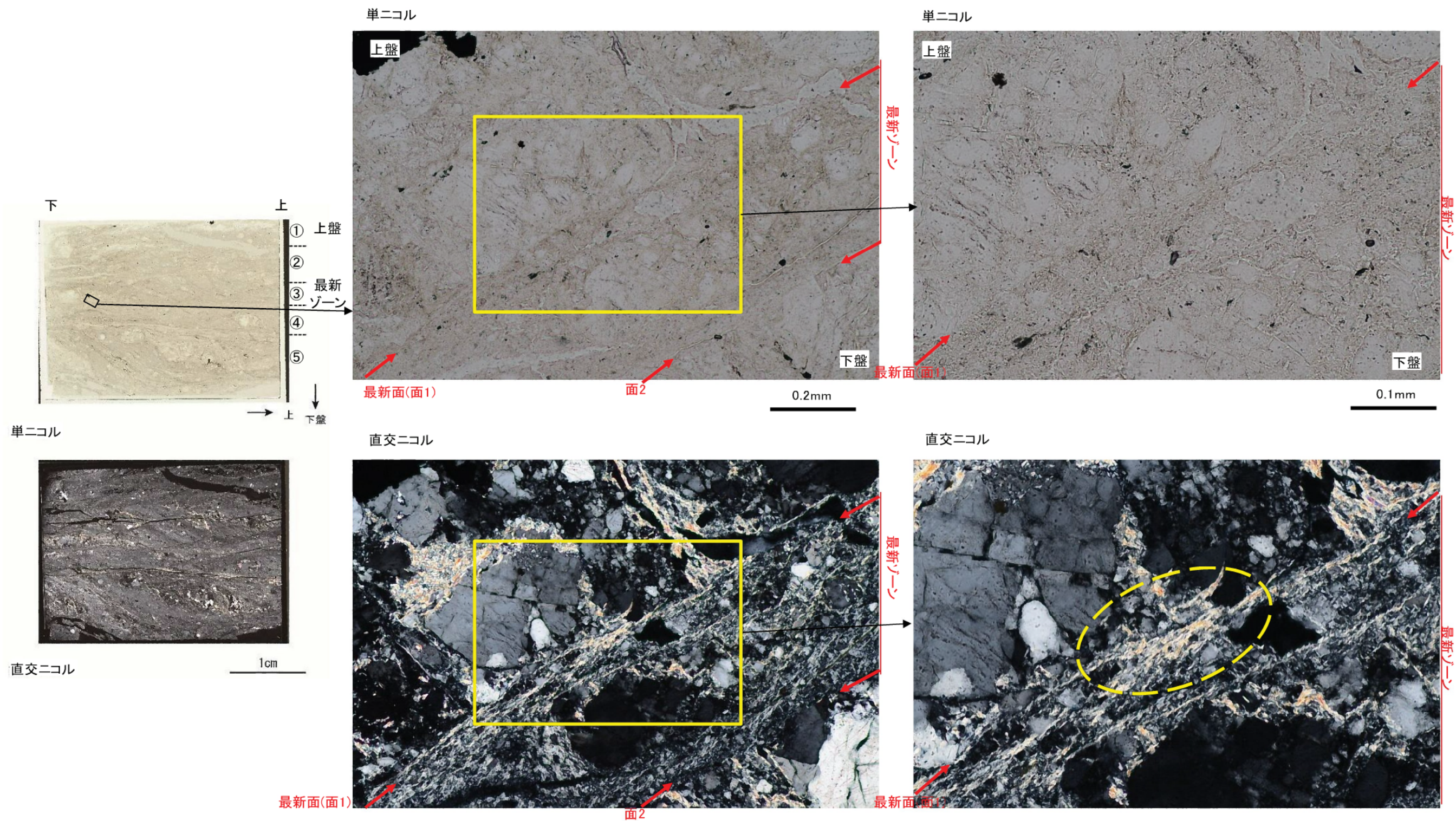
CT観察における断層面において条線観察を実施した結果、レイク88° R(N)の条線が認められる。センスは不明。

32.35m付近 薄片観察結果(1)

として認定した破碎部のうち 32.35m付近で認められた破碎部の薄片を観察した。



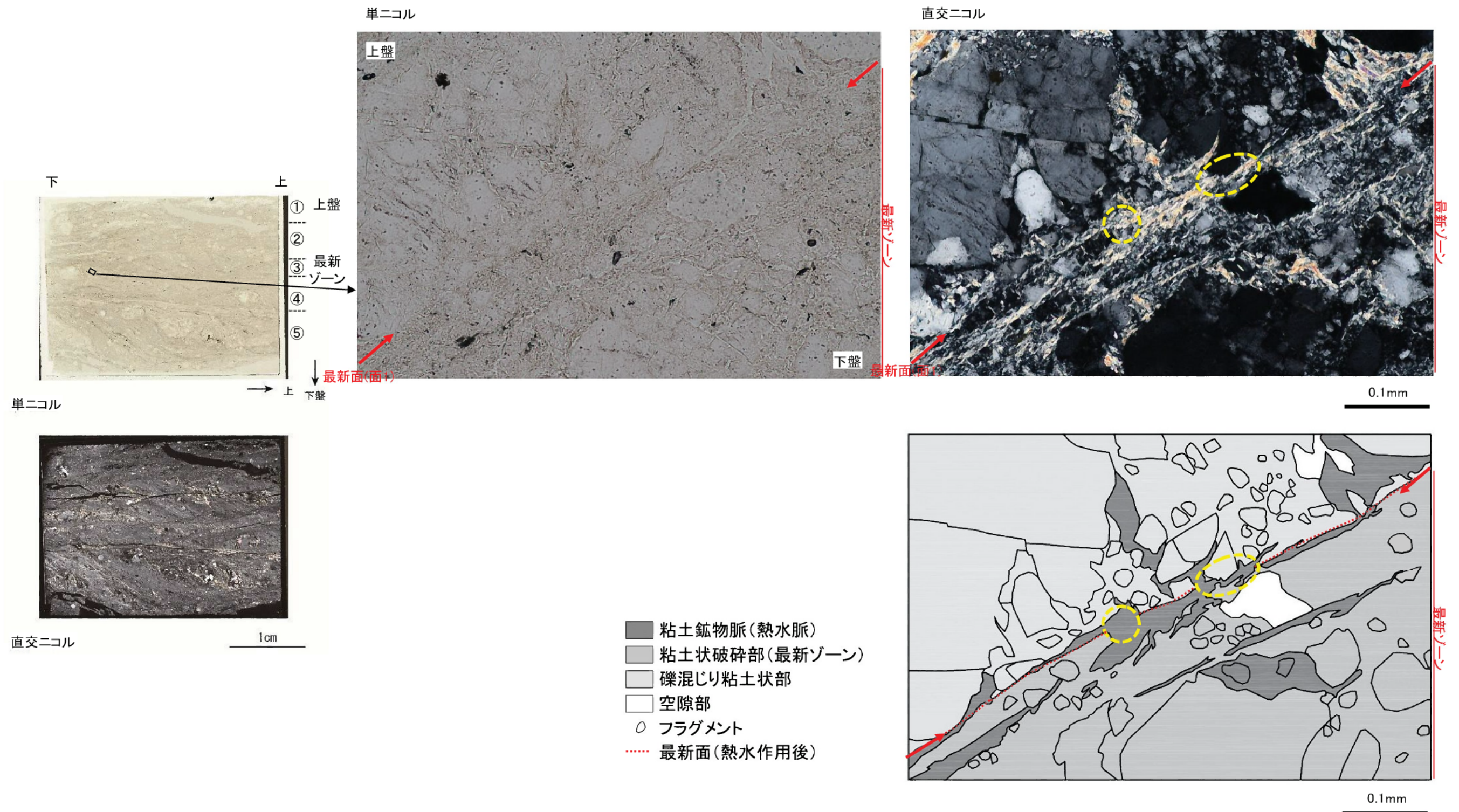
32.35m付近 薄片観察結果(2)
 として認定した破碎部のうち 32.35m付近で認められた破碎部の最新面(面1)と粘土鉱物との関係について詳細な観察を行った。



- ・最新面(面1)及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達しており、最新面(面1)が粘土鉱物で充填され不明瞭になっている。
- ・また、この粘土鉱物には最新面(面1)を横断しているものがあり、変形していない。

32.35m付近 薄片観察結果(3)

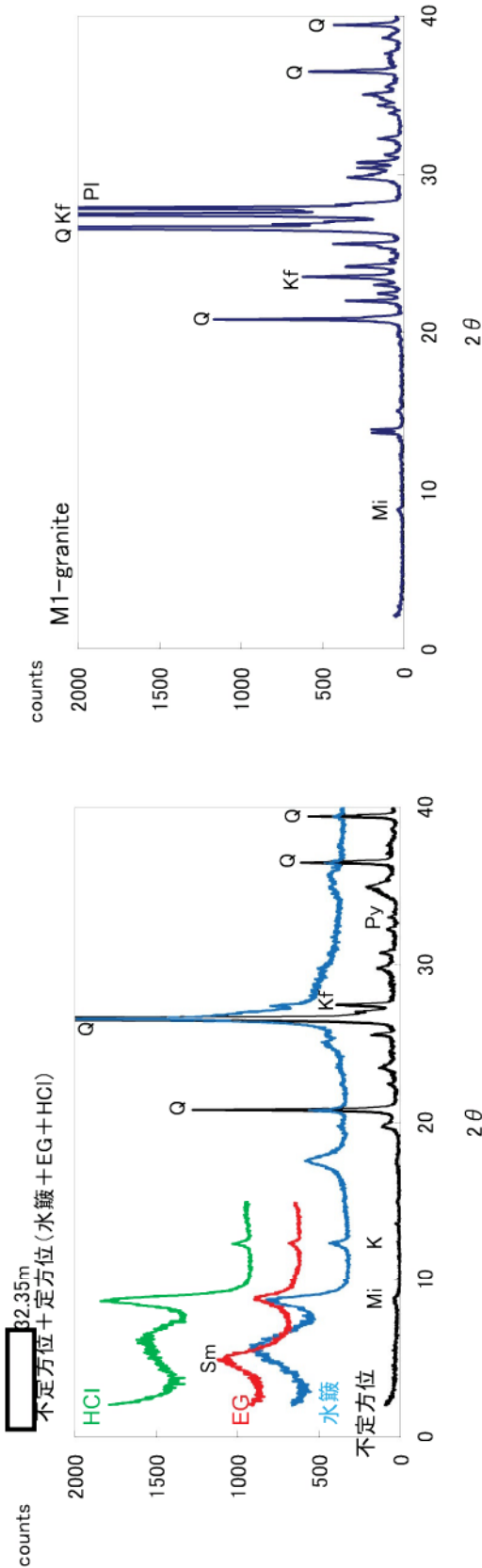
として認定した破碎部のうち 32.35m付近で認められた破碎部の最新面(面1)と粘土鉱物との関係について詳細観察結果のスケッチを以下に示す。



- ・ 最新面(面1) 及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達しており、最新面(面1)が粘土鉱物で充填され不明瞭になっている。
- ・ また、この粘土鉱物には最新面(面1)を横断しているものがあり、変形していない。

32.35m付近 XRD分析結果

ボーリングコア(敷地外No.2孔の深度83m)から採取した新鮮な花崗岩と
破砕部の鉱物組成を比較する。



32.35m 破砕部のチャート

水簾・EG処理・塩酸(HCl)処理を施した試料の回折パターンは、見やすくするため
不定方位の回折パターンの上方にずらして表示した。

新鮮な花崗岩※のチャート

※ボーリング敷地外No.2孔の孔底付近より採取

X線粉末回折結果

孔番	深度と性状	ス멕クタイト	雲母粘土鉱物	カオリン鉱物	石英	斜長石	カリ長石	方解石	黄鉄鉱
32.35m 破砕部		・	-	-	◎	-	-	-	-

凡例 ◎:多い ○:ある △:少ない -:疑わしい ·:水簾試料のみで確認
(基本は不定方位分析の回折線を使用)

記号 凡例	
Q:	石英
Kf:	カリ長石
Pl:	斜長石
Sm:	ス멕クタイト
Mi:	雲母粘土鉱物
K:	カオリン鉱物
Ca:	方解石
Py:	黄鉄鉱

32.35mの破砕部は新鮮な花崗岩に比べ斜長石やカリ長石の割合が小さくなっている。
32.35mの破砕部は、雲母粘土鉱物、カオリン鉱物(ス멕クタイトは水簾のみで確認)を生成している。
よって、32.35mの破砕部は熱水変質作用を受けていると判断される。